

立教法学 第四二号 内容

〔野村浩一教授退職記念〕

定価 三〇九〇円

論 説

清沢洌におけるナショナリズムとリベラリズム

北岡伸一

戦後青年団運動の思想

五十嵐暁郎

強制競争入札制度と地方政府改革構想

新藤宗幸

アンシアン・レジーム期フランスの政治思想における

国家と家族

吉岡知哉

不処分決定と一事不再理の効力

荒木伸怡

行政判例と行政法学 (三)

橋本博之

重野安繹の中国観

陶徳民

‘He that hath the Dominion over the Child’

Michiko Nakayama

研究ノート

『白堅武日記』に見る九・一八事変

光田剛

ネオ・コーポラティズムと「合理性」の転換

岡田憲治

立教法学 第四三号 内容

定価 二四〇〇円

論 説

行政判例と行政法学 (四・完)

——モリス・オリウの行政法学——

橋本博之

福沢諭吉と「公」・「私」・「分」の再発見

松田宏一郎

被告人の地位とその自白

田宮裕

刑事手続きの簡易化

田宮裕

淡水資源に関する世代間衡平

エデイス・ブラウン・ワイス

(兼原敦子・訳)

Lawyers in Tokyo and Their Work for Businesses

Ryo Hamano

資料

テオドシウス法典 (Codex Theodosianus) (五)

テオドシウス法典研究会

(代表 林 信夫)